

1 単元 生きる姿「走れメロス」

2 単元目標

作品をさまざまな視点からとらえようとする姿勢を身に付ける。

3 単元設定の理由

(1) 生徒の読みとりは主人公中心の画一的なものになりつつある。

小説を読むとき登場人物の心理を読むことは重要なことである。しかし、こうした定番授業の中で懸念されるのは、主人公の心理のみをとらえたり、指導者の視点や価値の押しつけになっていなかったかということである。本学級でも、初読後にこの作品についての「物語文」を作らせたところ、「メロスが友情を大切にする物語」「メロスが勇者になった物語」「メロスが王のために信じることを伝える物語」など、メロスの視点から友情や信じることの大切さをとらえたものが7割を超えた。これらは確かに作品の主題のひとつであるが、小説という比較的抵抗の少ないジャンルの読みが画一的なものになりつつあることは中学2年生の読解力や読書の楽しみ方からすれば不十分であると感じる。

「物語文」とは、小説から取り出した物語を一文に要約したもの。「基本型」として「～が～する物語」「～が～になる物語」の2つがある。石原千秋『小説入門のための高校入試国語』より(日本放送出版協会、2002年)

(2) さまざまな視点からの多様な読みとりが実感できる作品である。

自分の身代わりとなった友との約束を守るため、幾多の困難を克服して定刻までに王城にたどり着こうとするメロス。この作品は、一見、「愛」「友情」「信実」を主題とする単純で明快なストーリーとしてとらえられがちだが、繊細で巧みな描写をとおして登場人物の内面の揺れや葛藤、苦悩を時間の経過とともに読み進めていくと、さまざまな視点から読み深めることができる。残虐で人間不信の塊である王ディオニスの人間的苦悩、正義感あふれるメロスの心の中にひそむどろどろした私欲。ストーリーの展開とともに変容していく人間像と場面ごとの仕掛けなどから生徒一人ひとりの着眼点をもとに多様な読みが実感できる作品であると考えられる。また、視点を変えることによってさまざまな価値を与えてくれるこの作品は、思春期の生徒に人間理解や作品解釈のおもしろさにも気付かせてくれるだろう。

(3) 読みとりの多様性に気付かせることによって、様々な視点からとらえ読もうとする姿勢を身に付けさせたい。

同じ本でも時期をおいて読んでみると、これまでと異なる価値を見いだすことができるのは、読み手自身の知識や経験が積み重ねられていくことにより読みとりの視点が変わるからである。これが本を読むことの醍醐味のひとつである。指導にあたっては、登場人物の二面性や葛藤の様子、心情の変化を優れた心情描写や情景描写、会話に着目して時間の経過とともに丁寧に理解させたい。また、互いの「物語文」を紹介し合うことをとおして他者の読みとりを知ったり、初読後に作った「物語文」と学習を終えた後のそれとを比較させたりすることにより自己の読みの変化にも気付かせたい。このような自己や他者の多様な読みとりに気付かせることによって、作品をいろいろな視点からとらえ読み深めていこうとする姿勢を身に付けさせたい。

4 学習計画(8時間)

- 全文を通読し、最初の「物語文」を作る。 1時間
- 登場人物の人間像をおおまかにとらえる。 1時間
- 1、2場面を読み、メロス、王、セリヌンティウスの人間像をとらえる。 . . . 1時間
- 3場面を読み、村に戻ったメロスの行動と故郷への未練をとらえる。 1時間
- 4場面を読み、メロスの心の動揺をつかむ。 1時間
- 5場面を読み、メロスの走る目的の変化をつかむ。 1時間
- 6場面を読み、メロスと王の人物像の変化をつかむ。 1時間
- 2回目の「物語文」を作り、紹介し合う。 1時間(本時)

5 本時の学習指導

(1) 主眼

「物語文」を紹介し合い、多様な読みに気付くことができる。

(2) 研究主題との関わり

本校研究主題

「表現力豊かな生徒の育成」 ～ 基礎・基本の徹底を通して ～

優れた文学的表現に触れ、それを通してさまざまな視点から作品を読み深めていくこと、また、簡潔な「物語文」に要約したり、「物語文」をとおして読みを互いに交流し合ったりすることは表現力豊かな生徒を育成することにつながると考える。

(3) 授業の過程

学習内容および学習活動	教師の支援
<p>学習課題の確認 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまでの学習を生かし、もう一度「物語文」を作ってみよう。</p> </div> <p>「物語文」の作成 二回目の「物語文」を作る。 メロスが最後まで走り続ける物語 メロスが王との約束を守る物語</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>メロスが人間的な弱さと闘いながら走り続ける物語 メロスがシラクスの町を救い、勇者になる物語 王が信実を知り、メロスたちの仲間になる物語 セリヌンティウスがメロスを信じて待ち続ける物語</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>読みとりが深まれば、より詳しい表現ができる 視点が変われば、とり上げる登場人物が変わる</p> </div> <p>「物語文」の紹介 完成した「物語文」を短冊に書き、グループ内で紹介し合う。</p> <p>短冊を黒板に貼る。</p> <p>授業評価 本時の授業を振り返る。</p>	<p>単元の最初に取り組んだ活動を想起させる。 登場人物の移動や変化に注目して「物語文」を書いたことを思い出させる。</p> <p>前回作った「物語文」と比較させたり、これまでの学習を教科書やノートで振り返らせたりしながら作成させる。 ここでは、あえて前回と異なった視点でといったような指導者の意図を指示しない。</p> <p>【書くこと】 読みとりを深め、自らの視点で「物語文」を作ることができたか。(ワークシート) 一番印象に残った登場人物や作品の最初と最後で一番変化した登場人物を挙げさせ、その人物について考えさせる。</p> <p>「物語文」をその理由とともにグループ内で紹介させ、友だちの「物語文」のよいところや自分との違いをもとに簡単に感想を述べさせる。</p> <p>【話すこと・聞くこと】 「物語文」とその理由をわかりやすくグループ内で紹介することができたか。(観察) ワークシートを再度、確認させる。 視点の違いがわかるように整理して貼らせる。 視点を変えたり、自分なりのこだわりをもったりすることなどによって、作品の読みとり方はいろいろあることに気付かせる。</p> <p>生徒による授業評価を行う。</p>

【 】: 評価の観点 : 評価規準 : 支援を要する生徒への手だて : 研究主題に関わる支援